

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495100230	事業の開始年月日	平成25年8月1日
		指定年月日	平成25年8月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語さいわい		
所在地	(〒212-0053) 川崎市幸区下平間340-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 宿泊定員 定員計 ユニット数	名 名 18名 2ユニット
自己評価作成日	平成26年 10月18日	評価結果 市町村受理日	平成27年5月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>花物語さいわいは、川崎駅・平間駅から東急バスで10分程の「武道館前」というバス停より徒歩2分程、JR鹿島田駅より徒歩15分程にある施設です。 施設周辺は閑静な住宅街であり、地域に溶け込んだ運営を目指しています。</p> <p>花物語さいわいIFは、平成25年8月1日に認知症対応型共同生活介護と小規模多機能型居宅介護の併設施設として開設しました。</p> <p>施設理念「安らぎの場所」「自由な場所」「快適な場所」を目指し、ご入居様お一人お一人が第二の我が家と思って頂けるよう、望んでいることを実現できるように支援してまいります。</p> <p>施設全体に笑顔があふれるような住まいを目指してまいります。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年11月18日	評価機関 評価決定日	平成27年4月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所はJR南武線鹿島田駅から徒歩14分ほどの、大通りから少し入った住宅街に立地している。近くには病院や大型スーパー、下町の雰囲気の漂う商店街も残り、利便性に優れている。建物は3階建てで、1階が併設の小規模多機能型居宅介護、2階と3階がグループホームになっている。併設型の利点を生かしイベントなどを共同開催する他、利用者同士がエレベーターで自由に行き来し将棋などを楽しんでいる。</p> <p>【地域との連携】 管理者は地域との連携に力を入れており、下平間町内会に加入し老人会や祭りに参加している。利用者の住まいの近所の方が地域の集まりに誘いに来てくれることもある。また、事業所の駐車場で年2回開催する「健康祭り」には、近隣住民にチラシを配り参加を呼び掛けている。歯科医やオーナーの鍼灸院の協力を得て、口腔チェックや手指マッサージ、血管年齢測定、足湯などを行っている。併せて介護相談の窓口を設置し、気軽に相談に立ち寄って貰っている。近隣の病院とは、受診を終えた利用者を送ってくれるなど協力関係ができています。</p> <p>【積極的な外出支援】 天気がよければ、車イスの方も一緒にほとんどの方が、ほぼ毎日午前と午後の2回に分け散歩や買い物に出ている。散歩におやつとお茶を持って公園に出掛け、近隣の子もたちと交流することもある。大型スーパーも近くに2店あり、利用者はそれぞれ好みの店で買い物を楽しんでいる。初詣や花見などの遠出には法人の車で出かける。隣の病院へ一人で出かける方もいて、職員は側面から支援している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語さいわい
ユニット名	ユニット1

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念のもと、日々の介護を行っています。入居者様が常に明るく笑顔で過ごすよう、ご家族様・地域の方々との連携を図っています。安心して生活でき、施設が入居者様の居場所と感じてもらえるよう施設理念の共有を図り、日々の申し送りやユニット会議の中でも確認を行うようにしています。	設立時に管理者と職員が話し合い、事業所が利用者の第2の我が家となるよう願い、「安らぎの場所」「自由な場所」「快適な場所」を理念に掲げた。事務所、各フロアに掲示しユニット会議や申し送りで確認し共有している。職員は娘や孫のように利用者に接し、一人一人の思いや要望を把握し実現に向け支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として交流している	近隣の方も参加できるよう、買い物サロン等の行事を企画し、地域との交流を図っていきます。また、散歩や隣の病院の通院時には、声をかけて挨拶していただいたり、職員も含めて会話を楽しんだりする場面もあります。	下平間町内会に加入し地域の祭りに参加している。近隣の病院とは、受診を終えた利用者を送ってくれるなど、協力関係が築けている。年2回事業所の駐車場で「健康祭り」を開催し、近隣住民にチラシを配り参加を呼び掛けている。民生委員の方には将棋相手のボランティアの紹介を依頼している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では認知症の人の対応などについて話をし、ご家族や地域の方々と一緒に理解を深めるようにしています。また、近隣の病院に通院されている地域の方々が、気軽に認知症についての相談に来られています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のご意見から具体的に、職員の顔写真をフロアの見やすい場所に掲示したり、少しの時間でも歌を歌うなどのレクをしたりという工夫をしています。また、行事の内容や日常の生活活動、入居者の増減等も報告しています。	2か月ごとに開催し、自治会長、民生委員、家族、オーナー、区の高齢・障害課職員、地域包括支援センター職員の参加を得て行っている。事業所の現況報告の後、参加者と意見交換を行い、区からアドバイスを貰ったり、地域の情報を得て、事業所の運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、入居者家族からの相談・苦情などについて、かしまだ地域包括支援センターや、幸区役所高齢者支援課と連絡を取り、相談しています。	区の高齢・障害課職員とは折あるごとに訪問して相談をしたり、運営推進会議への出席を働きかけたりしている。地域包括支援センターとはクレームの相談などで連携を密にしている。市の主催の研修会に出席している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて『身体拘束ゼロの手引き』をもとに、事例検討を含めて、職員への指導を行っています。現在、身体拘束を行っている入居者様は、いません。必要に応じて家族を含め話し合いを行っています。施設玄関については防犯上施錠していますが、入居者様のご希望に応じて、職員と共に外出されています。	入社時研修や社内研修で身体拘束の研修を行っている。スピーチロックについても、具体的に事例をあげ、「待ってて。」や「座ってて。」の言葉掛けがなぜ拘束にあたるのかを学び共有している。管理者は日々の支援の中で指導している。施設玄関とユニット入口は安全のため施錠している。帰宅を望む方には職員と一緒に散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロー会議の中で事例検討を含め、どのような場合が虐待になりうるケースなのかを話し合い、理解を深めています。職員も虐待を見過ごさないように意識を高く持つように心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で権利擁護や後見制度について話し合っています。また、併設されている小規模での成年後見の手続きの一連の流れを、一緒に学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、見学時などに話し合いを多く持ち、お互い納得の上でご入居いただいています。特に、終末期ケアや医療行為に関する疑問があれば、具体的に説明し、転倒の不安がある方には、対応方法の具体的な事例を挙げ、ご家族のご意向を伺っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者とのかかわりの中で、意見・要望があれば、随時家族に電話連絡をし、利用者・家族それぞれの意見を取り入れるよう努めています。また、家族の面会時や運営推進会議での意見も運営に反映させています。	家族からの意見は面会時や電話連絡時に時間をかけて聴き取っている。身体機能の維持の為、散歩やレクリエーションを増やして欲しいとの要望があり、ゲームやボール体操を取り入れた。本人の要望は日頃の会話で聞き出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の運営会議やユニット会議を通じて意見や提案を検討し、よりよいものにできるよう努めています。必要物品の申し出や、レク内容について随時職員の意見を取り入れています。	職員の意見や提案は会社全体の運営会議やユニット会議、日々の業務の中で聞き取り、検討して改善に繋げている。ユニット会議は全員が出席できる日を調整して開催し、申し送りノートに記録されたことを中心に話し合っている。社長の巡回の際に、人員体制や手当てについて要望をして、改善が図られたケースがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時に（職員の希望があれば随時）個人面談を行い、就業時間の増減や、契約社員や社会保険の加入についての希望等、契約条件などを考慮し、雇い入れを取り交わしています。意欲や力（知力・体力・精神力）のあるものには、リーダーやその上を目指してもらおうよう伝えています。無資格者には、資格取得支援制度などの奨学金制度も整備しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけています。また、開設前に法人内のグループホームに、就業者を実習生として送り、お互いの気づきを勉強しました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市町村等からの研修等や他施設見学に参加する事や、川崎市連絡協議会との情報交換やネットワークを構築するよう努めています。また、他事業所との職員間の交流も行っており、サービスの向上についても話し合いをしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族やご本人に要望や困っている事を伺い、利用開始時にはアセスメントを取り、会話の機会を多く持つことで信頼関係を築けるように努めています。相談事や要望を話していただけるような関係性を持つよう心がけています。ご本人からの要望や苦情等に対しては、ケアに反映させるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人が困っている事をご家族に伝えたり、ご家族から不安な材料や要望を聞き取るよう常に連絡を取り合い、介護支援計画書に反映させ、安心して利用していただけるよう努めています。例としては、入居後帰宅願望が強い入居者を、家族と相談し話を合わせて説明。納得して過ごされているのを見てご家族が安心されています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の度合いや、おかれている環境・ニーズを把握し、入居者と家族環境を考慮し、GHが適切かどうかも考慮し、サービスに繋げています。場合によっては、小規模多機能型居宅介護や、他事業などへの紹介も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を第一に尊重し、本人のADLや意欲に沿った方法で、職員や他入居者と共にすることで仕事ができ、他者と協力しながら生活できることの喜びを分かち合える関係性を作れるように努めています。職員も同じ場に生活する者としての、挨拶を心がけています。例：職員の入退出時の声かけに於いて「ただいま」「行ってきます」を使用しています。		

19	<p>○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>常にご家族の意見も反映できるようにし、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけています。帰宅願望の強い方への対応については、声掛けの仕方をご家族に助言を頂いています。また生活歴の情報収集を行い、それをもとに職員間でも「申し送りノート」等を使用、相談し、ケアに反映させています。必要時にはご本人の要望に応じ、写真や思い出の物等を持参・職員と共に購入させてもらっています。</p>		
----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から親しくしていた近隣の方・町内会の方、親戚の方等の面会がしやすい雰囲気づくりを心掛け、関係性の継続を図っています。また入居前から恒例行事にしている家族との外食なども継続的に行えるように支援しています。	友人、知人、親戚の方が面会に来所する機会には、お茶を入れて歓待している。隣の病院に受診する機会を利用して面会に寄る方も多い。地元の方が多いので、毎月1回馴染みの店や懐かしい公園に散歩に出掛けている。電話の取次ぎや年賀状の投函の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会や季節の行事や音楽イベント等、入居者同士の親睦を深めるため合同で行っています。 また、良好な関係にある併設の小規模の利用者や他ユニットの入居者とのイベント交流も心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族を通じて、他事業者への情報提供等、支援を行っていきます。入院の際のお見舞いや手紙の発信などにより良い関係性が継続できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアの中でアセスメントを行い、申し送りやカンファにて、意向や希望の把握を随時行っています。ご本人の要望にあわせ、食事やおやつ変更したり、お散歩や買い物のお手伝いをさせていただくなど、個人の自立性を大切にしたケアを行っています。	アセスメントで暮らし方の希望を聴き取っている。利用者同士の会話や、夜間など職員と1対1で話せる時間に思いを聴いている。把握が困難な方には表情や行動から思いを汲み取り、検討して反映している。新聞のチラシを見ながら「こういうのが食べたいわね。」と話しているのを耳に挟み、買いに出掛けるなど、意向の把握と実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後も、家族や本人から情報を得て個人ノートを作成、今までやってきた家事や生け花等の趣味等が継続できるよう、利用に至る敬意や生活環境なども職員間で共有し、今までの生活習慣が継続できるような支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメント以外に、ケアプランの更新時の際にもモニタリングや評価を行っており、職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努め、話し合い対応しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や日々のケアの中において、本人や家族の意向に近づいた介護計画にする為、ご本人との会話を大切に、面会時家族や担当者会議にて職員から（申し送りノート活用）情報を多く得て、介護計画書を作成、職員間で共有を行っています。	担当者会議で話し合い、計画作成担当者が暫定のケアプランを作り、職員が意見を出し合い、本人・家族、医師の意見も取り入れ、身体状況を反映させた計画を作成している。その後、モニタリング、評価を行い、通常長期6か月、変化があればその都度見直している。介護計画の支援項目に沿った介護記録をつけることで、目標を確認しながら支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に時間ごとのご様子や、入居者の言葉や様子を記録し、願いや困り事をリサーチし、日々の細かな情報や気づきを記録に残し、申し送りやカンファにて情報の共有及び、介護計画書への反映、見直しを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状必要なサービス、今後必要になるサービスは何であるかを考え、本人と家族の関係性を考慮しながら、かかりつけ医の受診の支援や家族との関係の調整など、必要なサービスにつなげるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	掲示板や町内会から情報を得て、この夏もお御輿に参加しました。地域活動への参加等を通して、心身の力を発揮し豊かな暮らしを楽しんで頂くよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、家族に承諾いただいたかかりつけ医が、月に2回の定期往診をしています。心身状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援しています。また必要時には、主治医の指示を頂き、外部受診の支援をしています。	内科は全員が協力医療機関の往診医と契約し、全体と個別の往診を合わせて月3回受診している。訪問歯科は週1回往診がある。皮膚科、整形外科は事業所の隣にあり、職員が受診に同行している。眼科の受診は家族が付き添い、結果は往診記録簿に記入し職員間で共有している。看護師は週1.5日勤務で、健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送りやケアの中で常に相談を行い、個人記録に記入など、情報の共有を行い、適切な受診や看護につなげています。また、看護師による介護職員への指導も行っており、適切な情報の伝達が行えるよう取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のお見舞いや家族との連絡を取ることで、本人の状態を把握するよう努めています。また退院にあたっては、ご家族、病院関係者の方と話し合いを持ち、ケアの方向性、リスク等を説明しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針について入居時に説明し同意を交わし、家族の意向を確認しています。病気発見時は家族の協力を得る為早い段階より十分に話し合い、看護師・主治医との連携をとり支援に取り組んでいます。	重度化の対応に関する指針を入居時に説明し同意書を受け取っている。医療行為が発生せず、本人・家族が望めば看取りを行う方針で、早い段階から話し合い、家族の協力を得て、医師、看護師、職員で連携を取り支援に取り組んでいく。まだ経験はないが、緊急時の対応についての研修を行っている。	看取りに関する計画的な研修を継続して実施し、準備を整えることを希望します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時の研修や、社内研修で急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めています。また、個別に対応できる救急ファイルを看護師が用意しています。不安がある職員には、更に対応の仕方を伝えています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	川崎市幸区消防署と連携し、日中の避難訓練と夜間想定訓練を実施。また、災害時備蓄品も備えています。	年2回防災訓練を実施している。うち1回は消防署立会いの下に行っており、今年度は11月末に夜間想定で実施をする。町内会への協力を呼びかけ、オーナーの参加を得た。開始時間を決めない避難訓練も実施し、経験を積んでいる。水・非常食の備蓄3日分を備えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬と敬意の念を持って接しています。不穏状態が続いたとしても、その方の生活暦や性格を考慮し、その都度言葉掛けや対応に配慮しています。着脱や靴の脱ぎ履きの順番もご本人を尊重し、ご本人の順番に合わせて介助を行う工夫をしています。	職員は入社時研修でプライバシー保護、個人情報保護法、マナーを学んでいる。日々の支援の中で声掛けや対応について管理者はその都度指摘をし、尊敬の念をもって接するよう指導をしている。個人に関する情報は書棚で施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為や言葉、他の方々に不快感や不穏な状態、健康状態に支障にならない限り、自己決定できる支援を心がけています。購入品の希望があった場合は、一緒に買い物へ行き、自分で選ぶように働きかけています。又、普段の着替えの洋服や飲み物も、自分で選べるよう声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の有無、ごみ捨てや配膳の手伝い等、可能な限り本人の意向を優先しています。働きたいのか、散歩をしたいのか、又は、のんびりと過ごしたいのかを聞いてから、行動を共に行っています。就寝時間も体調等を考慮し、好きな時間に就寝しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思や希望を尊重し、ほとんどの入居者が自分で衣服を選んでいます。季節やTPOに合った身だしなみができるよう職員からの声掛けも行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みやできる力を把握し、入居者に確認しながら、調理をする人、片づけをする人を決め、職員と一緒に、準備や調理を行っています。また、食事が楽しめるよう音楽をかけながら召し上がることもあります。	食材業者から配達される食材を職員が調理し、利用者は野菜の千切りや盛り付け、下膳などを職員と共に行っている。食事中職員は見守りをしている。皆で餃子を作ったり、利用者の希望でハンバーガーを買いに行ったり、時にはおにぎりを握って駐車場でピクニック気分を味わうこともある。外食には家族が同伴で行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの摂れたメニューにより調理を行っています。個人の状態に合わせたご飯の量を盛り付けたり、適切な飲水量が確保できるように、声掛け等、支援を行っています。水分摂取量や食事摂取量は記録に残し、一日の総水分摂取量に応じて、ご本人の嗜好に合わせた飲み物などを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に応じたケアを実践しています。毎食後、口腔ケアの介助が必要な方には、声掛けや見守りや、必要に応じて、介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の尿意や便意の訴えにより声掛け、誘導を行っています。尿意や便意の訴えの無い方、間に合わない方は、記録により排泄パターンを把握し、時間を見計らって声掛け誘導を行っています。	トイレでの排泄を基本とし、排泄状況を記録しパターンを掴み、タイミングを見て声掛け誘導している。誘導することでオムツからリハビリパンツの使用になった方がいる。失敗した場合も他人に知られないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めています。また、毎朝体操を取り入れたり、必要な飲水量の確保、おやつ（ヨーグルトなど）にて排便コントロールの支援を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意志を尊重し体の状態も考慮し、気分良く入る声掛を工夫しています。拒否がある場合はその方に合わせた声掛や誘導をしています。入浴ができない時が続くような場合は、足浴や清拭で対応しています。	入浴は週2回としているが、本人の希望を尊重し回数や曜日、時間帯の変更に応じている。お湯は一人一人取り替えている。女性2人で入浴する方もいるが、基本は同性介助で対応している。入浴嫌いの方には入浴剤を変えたり、声掛けする職員を変え工夫している。週1回湯河原温泉のお湯が届き、足浴を楽しんでいる。むくみや水虫予防のため毎日足浴をする方もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様が、自由に居室やフロアにて過ごしています。お一人での移動が不可能な場合は、その時の状態観察をしながら、本人にも聞いて休息の支援を行なっています。夜間安眠して頂けるよう、日中の活動も考慮し支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に配慮をし、症状の変化や経過などは主治医へ必ず報告し、連携に努めています。また、看護師が記載した往診記録と別ファイルに添付してある薬剤情報を確認しながら、服薬の支援を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて過ごせるよう支援に努めています。台所仕事が好きな方には、調理や片付け、テーブル拭き等を職員と一緒に行動しており、職員から常に感謝の言葉をお伝えしています。また、手先の器用さに応じ、針仕事を実践し、職員や他利用者から感謝されることにより、喜んでいただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出を支援しています。お盆の時に墓参りに家族と共に出かけた方が数人います。また、日常的な買い物で、歩きや車にて、近所のお店に買い物に出かけています。	午前、午後に分かれ、毎日散歩に出掛けている。近くの公園におやつとお茶を持参して出掛け、近隣の子どもと触れあうこともある。スーパー、書店への買い物、区民祭りに、車いすの方も同行している。初詣、花見などの遠出は車で出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所でっており、使った額を請求させていただく立替制度を取っています。 本人所持の希望は、家族と相談の上使えるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	用事がある時や、家に帰りたいという訴えがあった時には、家族了解の下、電話ができるように支援を行なっています。また、手紙のやり取りができるよう支援し、大切な人との関わりが続けられるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の洗面台やフロアに、毎週違う生花を飾っています。また、ご家族の了承のもと、お誕生日などのイベントで撮影した入居者様の写真をフロアに飾り、他の入居者様やご家族、来訪者との会話につなげています。	小規模多機能型居宅介護と共用の玄関には、花守担当職員によりゆりなどの生花が飾られ華やかな雰囲気である。清掃が行き届いた広いリビングにはテーブルやソファが配置され、利用者の作品や行事の写真、クリスマスツリーを飾り季節感を演出している。温度や湿度に気を配り、利用者の様子を見ながら調節している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者お一人お一人が自由に居室やフロアを移動できるようにしています。他ユニットの気の合う入居者との行き来も、自由にできるよう支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具、お気に入りの写真立てやアルバム、時計などお持ちいただきそばに置く事により、自宅のような感覚で、安心して居心地よく生活できるよう、ご家族と一緒に工夫をする配慮をしています。	利用者は馴染みのタンス、仏壇、テレビ、座卓を持ち込み、ご主人が撮った写真、カレンダー、時計を飾り思い思いの居室作りをしている。転倒に備えベッド脇にセンサーマットを敷く方もいる。清掃は職員と利用者が毎日一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内設置の洗面台では口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分でできるよう、ご家族と相談・協力しながら、個別性を重視した環境を目指し自立した生活が送れるよう支援しています。		

事業所名	花物語さいわい
ユニット名	ユニット2

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念のもと、日々の介護を行っています。入居様が常に明るく笑顔で過ごすよう、ご家族様・地域の方々との連携を図っています。安心して生活でき、施設が入居様の居場所と感じてもらえるよう施設理念の共有を図り、日々の申し送りやユニット会議の中でも確認を行うようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として交流している	近隣の方も参加できるよう、買い物サロン等の行事を企画し、地域との交流を図っていきます。また、散歩や隣の病院の通院時には、声をかけて挨拶していただいたり、職員も含めて会話を楽しんだりする場面もあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では認知症の人の対応などについて話をし、ご家族や地域の方々と一緒に理解を深めるようにしています。また、近隣の病院に通院されている地域の方々が、気軽に認知症についての相談に来られています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のご意見から具体的に、職員の顔写真をフロアの見やすい場所に掲示したり、少しの時間でも歌を歌うなどのレクをしたりという工夫をしています。また、行事の内容や日常の生活活動、入居者の増減等も報告しています。		

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、入居者家族からの相談・苦情などについて、かしまだ地域包括支援センターや、幸区役所高齢者支援課と連絡を取り、相談しています。		
---	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて『身体拘束ゼロの手引き』をもとに、事例検討を含めて、職員への指導を行っています。現在、身体拘束を行っている入居者様は、いません。必要に応じて家族を含め話し合いを行っています。施設玄関については防犯上施錠していますが、入居者様のご希望に応じて、職員と共に外出されています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	フロー会議の中で事例検討を含め、どういう場合が虐待になりうるケースなのかを話し合い、理解を深めています。職員も虐待を見過ごさないように意識を高く持つように心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で権利擁護や後見制度について話し合っています。また、併設されている小規模での成年後見の手続きの一連の流れを、一緒に学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、見学時などに話し合いを多く持ち、お互い納得の上でご入居いただいています。特に、終末期ケアや医療行為に関する疑問があれば、具体的に説明し、転倒の不安がある方には、対応方法の具体的な事例を挙げ、ご家族のご意向を伺っています。		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者とのかかわりの中で、意見・要望があれば、随時家族に電話連絡をし、利用者・家族それぞれの意見を取り入れるよう努めています。また、家族の面会時や運営推進会議での意見も運営に反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の運営会議やユニット会議を通じて意見や提案を検討し、よりよいものにできるよう努めています。必要物品の申し出や、レク内容について随時職員の意見を取り入れています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時に（職員の希望があれば随時）個人面談を行い、就業時間の増減や、契約社員や社会保険の加入についての希望等、契約条件などを考慮し、雇い入れを取り交わしています。意欲や力（知力・体力・精神力）のあるものには、リーダーやその上を目指してもらうよう伝えています。無資格者には、資格取得支援制度などの奨学金制度も整備しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけています。また、開設前に法人内のグループホームに、就業者を実習生として送り、お互いの気づきを勉強しました。		

14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市町村等からの研修等や他施設見学に参加する事や、川崎市連絡協議会との情報交換やネットワークを構築するよう努めています。また、他事業所との職員間の交流も行っており、サービスの向上についても話し合いをしています。</p>		
----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族やご本人に要望や困っている事を伺い、利用開始時にはアセスメントを取り、会話の機会を多く持つことで信頼関係を築けるように努めています。相談事や要望を話していただけるような関係性を持つよう心がけています。ご本人からの要望や苦情等に対しては、ケアに反映させるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人が困っている事をご家族に伝えたり、ご家族から不安な材料や要望を聞き取るよう常に連絡を取り合い、介護支援計画書に反映させ、安心して利用していただけるよう努めています。例としては、入居後帰宅願望が強い入居者を、家族と相談し話を合わせて説明。納得して過ごされているのを見てご家族が安心されています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の度合いや、おかれている環境・ニーズを把握し、入居者と家族環境を考慮し、GHが適切かどうかも考慮し、サービスに繋げています。場合によっては、小規模多機能型居宅介護や、他事業などへの紹介も行っています。		

18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の意思を第一に尊重し、本人のADLや意欲に沿った方法で、職員や他入居者と共に行うことで仕事ができ、他者と協力しながら生活できることの喜びを分かち合える関係性を作れるように努めています。職員も同じ場に生活する者としての、挨拶を心がけています。例：職員の入退出時の声かけに於いて「ただいま」「行ってきます」を使用しています。</p>		
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>常にご家族の意見も反映できるようにし、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけています。帰宅願望の強い方への対応については、声掛けの仕方をご家族に助言を頂いています。また生活歴の情報収集を行い、それをもとに職員間でも「申し送りノート」等を使用、相談し、ケアに反映させています。必要時にはご本人の要望に応じ、写真や思い出の物等を持参・職員と共に購入させてもらっています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から親しくしていた近隣の方・町内会の方、親戚の方等の面会がしやすい雰囲気づくりを心掛け、関係性の継続を図っています。また入居前から恒例行事にしている家族との外食なども継続的にできるように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会や季節の行事や音楽イベント等、入居者同士の親睦を深めるため合同で行っています。また、良好な関係にある併設の小規模の利用者や他ユニットの入居者とのイベント交流も心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族を通じて、他事業者への情報提供等、支援を行っていきます。入院の際のお見舞いや手紙の発信などにより良い関係性が継続できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアの中でアセスメントを行い、申し送りやカンファにて、意向や希望の把握を随時行っています。ご本人の要望にあわせ、食事やおやつ変更したり、お散歩や買い物のお手伝いをさせていただくなど、個人の自立性を大切にしたケアを行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後も、家族や本人から情報を得て個人ノートを作成、今までやってきた家事や生け花等の趣味等が継続できるよう、利用に至る敬意や生活環境なども職員間で共有し、これまでの生活習慣が継続できるような支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメント以外に、ケアプランの更新時の際にもモニタリングや評価を行っており、職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努め、話し合い対応しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や日々のケアの中において、本人や家族の意向に近づいた介護計画にする為、ご本人との会話を大切にし、面会時家族や担当者会議にて職員から（申し送りノート活用）情報を多く得て、介護計画書を作成、		

			職員間で共有を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に時間ごとのご様子や、入居者の言葉や様子を記録し、願いや困り事をリサーチし、日々の細かな情報や気づきを記録に残し、申し送りやカンファにて情報の共有及び、介護計画書への反映、見直しを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状必要なサービス、今後必要になるサービスは何であるかを考え、本人と家族の関係性を考慮しながら、かかりつけ医の受診の支援や家族との関係の調整など、必要なサービスにつなげるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	掲示板や町内会から情報を得て、この夏もお御輿に参加しました。地域活動への参加等を通して、心身の力を発揮し豊かな暮らしを楽しんで頂くよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、家族に承諾いただいたかかりつけ医が、月に2回の定期往診をしています。心身状態について家族や主治医と常に連携を取り、本人が適切な医療を受けられるよう支援しています。また必要時には、主治医の指示を頂き、外部受診の支援をしています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送りやケアの中で常に相談を行い、個人記録に記入など、情報の共有を行い、適切な受診や看護につなげています。また、看護師による介護職員への指導も行っており、適切な情報の伝達が行えるよう取り組んでいます。		

32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中のお見舞いや家族との連絡を取ることで、本人の状況を把握するよう努めています。また退院にあたっては、ご家族、病院関係者の方と話し合いを持ち、ケアの方向性、リスク等を説明しています。</p>		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針について入居時に説明し同意を交わし、家族の意向を確認しています。病気発見時は家族の協力を得る為早い段階より十分に話し合い、看護師・主治医との連携をとり支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時の研修や、社内研修で急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めています。また、個別に対応できる救急ファイルを看護師が用意しています。不安がある職員には、更に対応の仕方を伝えていきます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	川崎市幸区消防署と連携し、日中の避難訓練と夜間想定訓練を実施。また、災害時備蓄品も備えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬と敬意の念を持って接しています。不穏状態が続いたとしても、その方の生活歴や性格を考慮し、その都度言葉掛けや対応に配慮しています。着脱や靴の脱ぎ履きの順番もご本人を尊重し、ご本人の順番に合わせて介助を行う工夫をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為や言葉、他の方々に不快感や不穏な状態、健康状態に支障にならない限り、自己決定できる支援を心がけています。購入品の希望があった場合は、一緒に買い物へ行き、自分で選ぶように働きかけています。又、普段の着替えの洋服や飲み物も、自分で選べるよう声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の有無、ごみ捨てや配膳の手伝い等、可能な限り本人の意向を優先しています。働きたいのか、散歩をしたいのか、又は、のんびりと過ごしたいのかを聞いてから、行動を共にしています。就寝時間も体調等を考慮し、好きな時間に就寝しています。		

39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>本人の意思や希望を尊重し、ほとんどの入居者が自分で衣服を選んでいきます。季節やTPOに合った身だしなみができるよう職員からの声掛けも行っています。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者一人ひとりの好みやできる力を把握し、入居者に確認しながら、調理をする人、片づけをする人を決め、職員と一緒に、準備や調理を行っています。また、食事が楽しめるよう音楽をかけながら召し上がることもあります。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの摂れたメニューにより調理を行っています。個人の状態に合わせたご飯の量を盛り付けたり、適切な飲水量が確保できるように、声掛け等、支援を行っています。水分摂取量や食事摂取量は記録に残し、一日の総水分摂取量に応じて、ご本人の嗜好に合わせた飲み物などを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に応じたケアを実践しています。毎食後、口腔ケアの介助が必要な方には、声掛けや見守りや、必要に応じて、介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の尿意や便意の訴えにより声掛け、誘導を行っています。尿意や便意の訴えの無い方、間に合わない方は、記録により排泄パターンを把握し、時間を見計らって声掛け誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めています。また、毎朝体操を取り入れたり、必要な飲水量の確保、おやつ工夫（ヨーグルトなど）にて排便コントロールの支援を行っています。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>ご本人の意志を尊重し体の状態も考慮し、気分良く入る声掛を工夫しています。拒否がある場合はその方に合わせた声掛や誘導をしています。入浴ができない時が続くような場合は、足浴や清拭で対応しています。</p>		
----	----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様が、自由に居室やフロアにて過ごしています。お一人での移動が不可能な場合は、その時の状態観察をしながら、本人にも聞いて休息の支援を行っています。夜間安眠して頂けるよう、日中の活動も考慮し支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に配慮をし、症状の変化や経過などは主治医へ必ず報告し、連携に努めています。また、看護師が記載した往診記録と別ファイルに添付してある薬剤情報を確認しながら、服薬の支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感じて過ごせるよう支援に努めています。台所仕事が好きな方には、調理や片付け、テーブル拭き等を職員と一緒にこなっており、職員から常に感謝の言葉をお伝えしています。また、手先の器用さに応じ、針仕事を実践し、職員や他利用者から感謝されることにより、喜んでいただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出を支援しています。お盆の時に墓参りに家族と共に出かけた方が数人います。また、日常的な買い物で、歩きや車にて、近所のお店に買い物に出かけています。		

50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理は事務所で行っており、使った額を請求させていただく立替制度を取っています。本人所持の希望は、家族と相談の上使えるように支援しています。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	用事がある時や、家に帰りたいという訴えがあった時には、家族了解の下、電話ができるように支援を行なっています。また、手紙のやり取りができるよう支援し、大切な人との関わりが続けられるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の洗面台やフロアに、毎週違う生花を飾っています。また、ご家族の了承のもと、お誕生日などのイベントで撮影した入居者様の写真をフロアに飾り、他の入居者様やご家族、来訪者との会話につなげています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者お一人お一人が自由に居室やフロアを移動できるようにしています。 他ユニットの気の合う入居者との行き来も、自由にできるよう支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具、お気に入りの写真立てやアルバム、時計などお持ちいただきそばに置く事により、自宅のような感覚で、安心して居心地よく生活できるよう、ご家族と一緒に工夫をする配慮をしています。		

55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室内設置の洗面台では口腔ケアや整髪、身だしなみ等自分でできるよう、ご家族と相談・協力しながら、個別性を重視した環境を目指し自立した生活が送れるよう支援しています。</p>		
----	--	---	---	--	--

目標達成計画

事業所名 花物語さいわい

作成日 平成27年5月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33 1 12	看取りに関する計画的な研修を継続して実施し、準備を整えることを希望します。	看取りに対する研修を重ね、それを周知していく。	看取りに関して利用者本人の意向を事前に確認していく。職員で話し合い、研修に反映していく。	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。